

慢性の痛みにも専門外来

高岡整志会病院が開設

運動、心理的療法で緩和

高岡整志会病院（高岡市）は、原因となる疾患が治癒しているのに痛みが続く「慢性疼痛」を専門とした「慢性の痛み外来」を開設した。慢性疼痛を長年研究、診察する同病院の畠山登医師（58）が治療に当たる。畠山医師によると、全人口の約2割が慢性の痛みについて悩みを抱えているものの、県内で専用の治療を行っている病院や施設はほとんどない。

長年研究、畠山医師が治療

畠山医師は2012年4月から今年3月まで愛知医科大学病院（愛知県長久手市）の疼痛緩和外科・いたみセンターで、痛みに関連した病気に悩んでいる患者の診察に当たってきた。

慢性の痛みは原因が分からないことも多く、周囲から理解されにくいいため、身体的だけではなく、心理的にも追い込まれる人が多くいるという。従来の鎮痛薬では効果が発揮されにくい一方で、痛みに関する不安や恐怖をなくすことが大切になると考えられている。

高岡整志会病院は、専門家である畠山医師の着任を機に、これまで頼るところがなかった患者の受け入れ先として「慢性の痛み外来」を設けることにした。

「慢性の痛み外来」では、畠山医師の経験を基に運動療法や心理的な治療に力を入れていく。運動療法では「痛みがあっても動かせる体」を作り、患者に自信を持たせることで痛みの軽減につなげる。治療開始時には痛みが出てきた際のきっかけや治療歴などを聞くカウンセリングを行い、認知行動療法や催眠療法などの心理的サポートも施す。

畠山医師は「慢性の痛みに悩んでいる人の不安が少しでも解消できるような取り組みでいきたい」と話した。



新たに開設された専門外来で診察を行う畠山医師 一高岡整志会病院